

安心の地域
医療を支える



ジェイコー JCHO × ニュース

Japan Community Health care Organization

2019 SUMMER 夏号 | ジェイコーニュース | vol.22

独立行政法人地域医療機能推進機構

CONTENTS

p.02 ニュース

p.03 新任院長メッセージ

p.04 **【連続企画】** 看護部長に聞く②
地域との連携強化の取り組み

若狭高浜病院 看護部長 諸江 由紀子

大和郡山病院 看護部長 柳崎 朱美

高知西病院 看護部長 浅野 実香

福岡ゆたか中央病院 看護部長 古田 由美子

司会：理事（広報担当） 前野 一雄

p.08 **【トピックス】**

事務職員新人研修を終えて

本部 総務部 人事課人事専門職 岩瀬 康裕

p.09 **【特集】** 事務職員新人研修 受講生の一言

p.13 **【広報アラカルト】**

タイ自治体による湯河原病院視察を迎えて

湯河原病院 副理学療法士長 寺見 彰洋

p.14 **【インフォメーション】**

患者・利用者満足度調査を活かしたサービス向上

本部 企画経営部 患者サービス推進課

p.15 **【インフォメーション】**

第5回 JCHO 地域医療総合医学会の開催に向けて

一般社団法人地域医療機能推進学会 事務局長 中村 仁

p.16 **【JCHO GROUP】** 全国病院 MAP



福岡ゆたか病院のヘルシークッキング講座

地域との連携強化の
取り組み

連続企画

看護部長に聞く②

特集

事務職員新人
研修を終えて

ジェイコー JCHO × ニュース Japan Community Health care Organization NEWS

- 4月1日 事務職員新人研修
～ 12日
- 4月19日 評価者研修
- 4月19日 事務職員就職説明会
～ 5月23日
- 4月23日 新任管理者研修
～ 24日
- 5月16日 事務部長・看護部長等会議
～ 17日
- 5月24日 九州地区病院長会議



新任管理者研修

九州地区病院長会議

理事長が初めて参加して JCHO 松浦中央病院の開院に向け 14 病院長と意見交換を行いました。



事務部長・看護部長等会議
会議風景(左)、理事長挨拶(右)

携帯していた人工呼吸マスクで人命救助 ～ ICLS コース受講の成果～

久留米総合病院 4階病棟看護師 下川 くるみ

平成 30 年 12 月某日、福岡空港の一角で「体調が悪そう」と言いながら通り過ぎる人達の中、何があったのだろうと駆け寄ると呼吸停止、心停止している男性が倒れていました。すぐ持参していた携帯用人工呼吸マスクを使用し胸骨圧迫を開始しました。その頃にグランドスタッフが救急要請と AED の準備をしていました。私はスタッフに指示を出しながら

20 分ほど胸骨圧迫、人工呼吸を行い、救急隊の到着後アドレナリン投与と気管挿管の介助、点滴確保を行いました。

同年 10 月に当院で開催された ICLS (医療従事者のための蘇生トレーニング) コースを受講しており、今回使用した携帯用人工呼吸マスクは「もしも何かあったら。」という思いで用意していたものでした。身につけた知識がこの現場に活かせることができ、「受講していてよかった。」と感じた瞬間でした。

後日、博多消防署よりお礼の電話をいただき、感激しました。



新任院長メッセージ



JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院 池 秀之

4月1日に後藤 英司先生の後任として横浜保土ヶ谷中央病院院長に着任させていただきました池 秀之と申します。私は東京目黒区に生まれ育ち、昭和54年に横浜市立大学を卒業し、横浜市立大学第二外科に入局しました。癌研外科、大学、関連病院で修練後、大学に12年間、済生会横浜市南部病院に14年間勤務し、お世話になることになりました。今まで、消化器外科、特に大腸癌の外科治療、内視鏡治療を行ってきました。着任して、辞令交付式の時に私は職員の方に「挨拶をしよう」、「時間を守ろう」、「仕事中の挨拶でお疲れ様はやめよう」と3つのこととお話ししました。患者さんに対しても、職員間でもコミュニケーションは挨拶から始まると思います。また、仕事をきちんとする人に時間にルーズな人はいないと思います。最近は通りに「お疲れ様」と言われることもなくなり、ほっとしています。

病院の建て替え、医療機器の更新のためには経営の健全化が重要です。今後は、地域医療機関、医師会、地域住民、行政のさらなる信頼を得て、スタッフが働きやすい病院づくりに少しでも貢献できたらと思っています。新米院長でわからないことだらけですので、皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



JCHO 仙台病院 村上 栄一

此度、JCHO 仙台病院院長に就任いたしました整形外科の村上 栄一です。宜しく願いいたします。

当院には日本をリードしてきた腎センターがあり、腎移植や泌尿器疾患の治療でも高レベルの医療を提供してきました。そして日本初の腰痛・仙腸関節センターには全国から患者さんが訪れ、毎年開催される仙腸関節セミナーも16回を数え、国内各地から医師が参加しています。さらに近年は創傷ケアや心臓カテーテル治療や眼科領域の躍進が目立ちます。そして、2021年春には待望の新病院が仙台市北部に完成し、移転します。

今後の当院の目指す方向を問われれば、高齢化社会を見据えて、総合病院としての実力を蓄えながらも、患者さんからの気づきを研究につなげて世界に発信してきた仙台社会保険病院時代からの発信力に磨きをかけていきます。これを車に例えるならば、ビッグなトヨタというよりは、オリジナリティに拘る創立者の精神を何処までも継承し、二輪車から四輪車、そしてホンダ・ジェットまでを産み出したホンダです。

最後に、病院長として太陽のように生きようと思っています。太陽は人々に熱と光を与えます。熱意をもって接すれば、その情熱が自然と人に伝わり、光で人々の長所を照らして、引き出していけば病院発展のエネルギーが結集されると確信しています。田熊 淑男名誉院長が築いてきた財産を活かし、職員一丸となって、地域医療に貢献し、地域が誇りとする病院を築いていく決意です。

地域との連携強化の取り組み

今回は「地域との連携強化の取り組み」をテーマに、JCHOの社会的使命の一つである地域包括ケアの推進に向けて、日頃、地域や患者さんたちへ積極的に働きかけている活動について話し合ってください。



前野▼地域医療は地域のニーズにしっかり応える地域完結型への転換が迫られています。病院内から外へ出ていくという姿勢には、温度差があると思います。その辺を踏まえ、まずは若狭高浜病院からお話しさせていただきます。

院内から院外へ・広がる地域との取り組み

諸江▼当院は、職員が老人サロンに出席して健康の意識を高める取り組みとして、「出前講座」をしています。地域との絆づくりと、そこから健康づくりを支援していきましようという試みで、病院職員も積極的に出るようにしています。「忙しいのに」という声がないわけではないですが、やってみてすごく間口が広がった、距離が近くなったという実感はあります。

地域で唯一の病院なので、求められるものも非常に高い。地域が

置かれている医療の現状も含めて、町の人たちと共有しないといけない。それも、地域とつながる上でのテーマかと思っています。

前野▼「町民健康マイスター講座」「老人サロン」「健高カフェ」「地域診断大会」、色々あるようです。

諸江▼「町民健康マイスター講座」は、色々な施設の方を含めて1年間の講座を作って、うちのスタッフも講師として出掛けて行きます。住民の方たちに、健康の知識を学んでいただき、年度末にその方たちを町が健康マイスターとして認定します。

「老人サロン」では、老人が家に引きこもらないよう、交流の機会を設けるために地区単位で色々な催しをしており、インフルエンザの予防や、食中毒等の講話をしたり、理学療法士が寝たきり予防の体操を指導します。「健高カフェ」は、高浜町が健康になるために、テーマを決めて健康を語る会です。月1回、産業や花粉症、学習障害等多岐に渡るテーマについて、医療者だけでなく、行政の方、公民館の館長さん等、テーマごとに集まる人々を替えて話し合います。町が小さいので、話し合ったことは行政にすぐ反映され



て、制度や事業につながったりするのはここならではの取り組みかなと思いますし、やりがいがあります。約1万の人口で高齢化率が30%です。独居、老老介護が非常に多いので、在宅での長期の療養が難しい土地柄です。医療従事者、介護従事者も少なく、健康寿命をいかに維持していただくのが大切なので、頑張っています。

「地域診断大会」では、参加者にクイズをしながら、答えとして高浜町が抱えている健康上の問題は何かということをご皆さんにお伝えする。それが次の健高カフェのテーマにつながったりするので、町の方たちとの問題の共有というところで始めたんです。

柳崎▼大和郡山市は人口約8万6千人の地域です。毎年、看護の日には、新人看護師が商店街で血圧や体脂肪測定をしたり、健康相談やハンドマッサージをしたりするなどで、地域との触れ合いもっています。他に、月1回、商店街に

場所をお借りして、保健師による「町の保健室」で健康相談をうける場を設けています。大和郡山市では当院しか認定看護師がおりませんので、学校の感染予防対策に出向いたり、学童保育でのAED指導や中学校への出前授業も実施しています。

中学校での出前授業では、命の授業という助産師による出産の話や、看護師の仕事はどういうものなのかという話をしています。

また、病院独自に、産後、助産師による育児訪問を実施しています。

浅野▼高知西病院では、地域からのオファーに、院長、副院長が積極的に応えてくれるので、今後は病院自ら地域に出していきたいと考えているところ。健康教室は、地域の元気な高齢者向けにフレイル（虚弱）予防を中心に保健師が行い、病院に通っている患者さん向けにミニ健康教室を実施しています。



高知西病院
看護部長

浅野 実香

その他、高齢者支援センターからの依頼で「オレんジカフェなおか」という講座には、医師やリハビリスタッフを派遣しています。昨年度は、病気と生活、救急車をどういふときに呼んだらいいかという内容を院長、副院長にお話ししていただいています。医師の機動力が高く助かっています。

前野▼「神田川セミナー」というのは、こういった取り組みですか。

浅野▼病院の横を流れる川から命名した地域の医療関係者向けの研修会として、一昨年開始しました。地域の連携病院を招いて医療安全や疾患、薬剤指導などをテーマにした連携セミナーです。多いときは100人近くが集まっています。医療関係者が、顔の見えるつながりを持つことも目的です。

古田▼福岡ゆたか病院の活動としては、「健康フェア」は年1回大々的にやっているのと、近所の方を対象に管理栄養士が院内の病棟のダイニングで、食事関連のアドバースを月に3回やっています。

それから健康管理センター内の一部を利用して、「ヘルシークッキング」を行っています。調理を見ていただける大きなキッチンが一段上にありまして、手元が見えるように鏡が設置されています。



福岡ゆたか中央病院
看護部長

古田 由美子

（表紙の写真）。ご近所の方が30人から50人ぐらい来られて、そこで栄養士が調理をして、実際に食べていただく。これも好評で年3回やっています。

出前講座は、ニーズに合わせて講師を選んできて、インフルエンザ対策、食中毒予防等の講座を行っています。昨年度15回、合計459人参加がありました。

諸江▼特別養護老人ホーム（以下、特養）等、他の施設と連携しないといけないんですが、なかなかシームレスになっていないのが現実です。特養も退院先の一つであるため、スタッフと同じ目線で患者さんを守っていくことを目指していかないといけないんですけど、皆さんはどんなふうになされていますか。

柳崎▼当院では、地域から依頼があれば、認定看護師を活用して各分野の指導や講義に行かせています。昨年は、保健所からの依頼で介護老人保健施設（以下、老健）

に感染予防対策指導に行きました。ケアマネジャーとの連携では、大和郡山市と医師会が中心になって、昨年、在宅医療介護関係者と病院関係者の連携マニュアルという冊子を作りました。「入院調整ルール」と呼んでいて、「ケアマネジャーから主治医への連絡票」「在宅医療の介護連絡シート」というケアマネジャーがドクター宛に書けるような様式ができましたので、地域の患者さんがスムーズに病院の受診や入院ができるよう情報を交換しています。

褥瘡（床ずれ）に関して特定行為研修を修了した者がいますので、デブリードマン^{※1}や、陰圧閉鎖療法^{※2}は年間10件ぐらいは地域の主治医の先生と手順書を交わして地域に行って実施しています。

浅野▼高知市は「引き継ぎルール」を行政と医療、介護が一緒になって運用しています。介護関係者が、医療とのスムーズな連携を望んだ



司会：理事
（広報担当）

前野 一雄

※1 デブリードマン：きずについている壊死組織（皮膚やその下の組織の死がい）を、メスなどを用いて切り取ってしまうこと。
※2 陰圧閉鎖療法：創傷（けが）などにより失われた組織に対して体外から陰圧をかけ、創傷の治癒を促す方法。



のが始まりのようです。ルール化することで職種間の壁も低くなってきたと思います。

諸江▶例えば、特養でインフルエンザが集団発生したら、あつという間に病院にも持ち込まれてしまうので、そこをきちんと止めないといけない。

特養の現状を理解して、顔に見える、助け合える関係を作るには何から始めたらいいのかというのが、地方ほど難しく感じます。

「広報」という地域連携

前野▶広報活動はどうでしょうか。

諸江▶広報は、季刊誌の『虹』というものを出して、行事、病院の取

り組み等を掲載しています。

柳崎▶当院では広報誌は『飛躍』を年3回、『地域連携室だより』を不定期で2カ月に1回ぐらい発行しています。院内で実施している住民の方向けの健康教室の案内は、市の広報誌に載せてもらっています。市へ転入されてきた新婚さんに配るパンフレットの裏に産科の紹介を掲載したり、院内コンサートや看護の日、院内のアメニティーが良くなった時等、地域新聞に取材に来ていただいております。

浅野▶高知西病院の広報誌「こなつ」は、年3回発刊を目標にし、広報委員の若返りにより内容も時代に合うよう検討しています。

患者満足度調査結果からの展開

前野▶地域のメディアではタウン誌も含めた健康医療はニーズが大きいので、記者と関係を作っておくと、なかなか心強いものだと思います。

では、次に患者満足度調査の結果を踏まえた患者に対しての取り組みに行きましょう。やはり待ち時間に対しての不満が一番大きい。

古田▶診察に時間が取られるので、患者さんには説明して待つていただく。放射線科では待ち時間情報を提供しています。決め手になる対策がなくて困っています。

浅野▶当院の待ち時間対策は、例えば、ミニ健康教室に参加しても

らって、待つてる感覚を緩和させるような工夫をしています。今回の満足度調査では、放射線技師や、検査技師について評価値が平均より低く出ていました。患者さんとの接点が少ないので、なかなか評価されにくいのではないかと思います。今後、健康教室を活用し、検査の説明など専門職として直接伝えていけば結果に繋がるのではと考えています。

柳崎▶当院の満足度調査の結果は、各部門で課題を委員会に提出して、活動につなげています。昨年、リハビリ計画書の説明の充実や薬剤部の服薬指導件数増加などで、「説明のわかりやすさ」の満足度が上がりました。

療養支援に関しては、退院調整加算1取得と同時に退院調整看護師を配置して強化しました。

地域連携室への退院支援の看護師の配置や、がんの化学療法認定看護師によるがん相談を開始することで、満足度が少し上がりました。

た。満足度調査結果が、次年度の事業や計画につながっているの、刺激になる調査だと思います。

また、入院の説明等外来での入院支援を中央化することで、診療時間を確保し、待ち時間短縮に繋がりたいです。

諸江▶高浜も待ち時間は長いですが、徐々に先生が予約制を入れてくださって、少しずつ待ち時間の対策はできてきています。医療安全上も非常に意味がありますので、予約制が院内で浸透するよう今後も取り組んでいこうと考えています。

その他、今年は原点回帰でいさつをしつかりしましょうということを目標にしているので、来年の結果が楽しみです。

古田▶福岡ゆたかも予約制です。

浅野▶当院は整形だけ予約制で、内科、外科は予約制ではありません。

諸江▶予約制を入れたときに、地域の方々から、「いつでも見てくれる病院だったのに」という不満の声がありました。でも、それは先生たちが診療を継続できないことを分かっていたいただきました。安全な医療を提供するためにも、予約制だと前日にちゃんと患者さんの情報も確認して準備ができますし、予約制は必要だと思います。



流れてるように感じます。

地域連携の独自の取り組み

古田▼「地域連携の集い」と言いまして、地域の先生方をお招きして、意見交換会を実施しています。その中では、うちのドクターが最近のトピックスみたいな講演会を2、3行います。あとは地域医療介護連携会。地域のケアマネージャーの方との交流会があります。それは主に地域連携室が主催をして、年に2回ほど開かれています。

皆さんの病院ではどうですか。
柳崎▼先生方を集めて臨床カンファレンスという形で行っているものはあります。

浅野▼病院や事業所、様々な職種が集まり、地域包括ケア連携連絡会を年1回行っています。また、リハビリ部門が症例に関係した後方病院のリハビリスタッフやMSW※3、ケアマネージャーと症例検討会を行っています。今年から看護師を居宅介護支援センター（以下、居宅）に1人配置しています。看護師の視点で連携も強化し、医療の必要な利用者が、早期に入院し、早期に退院するという状況を整えていきたいと思っています。また、南海トラフ地震時の救護病院

となつていいる当院は有事の際の連携も重要であり、居宅利用者、訪問看護ステーション（以下、訪問）利用者の避難所マップ作成や、引き継ぎ方法の整備を実施しています。人工呼吸器を装着しているALS※4の患者さんの避難所に自家発電が無いいため、受け入れをお願いしたいといった個別対応にも取り組んでいます。

柳崎▼地域の医師会や協議会の中で出てきた要望に応えるようにしています。昨年度は診療所からの依頼で個別栄養指導を実施したり、診療所から放射線の時間外検査の受け入れや、週1回の小児科の夜間診療を始めました。当院の小児科の若い先生が訪問診療を開始し、今は訪問看護師と一緒に行動してもらっています。

前野▼高浜は老健をお持ちですが、老健との連携はいかがですか。

諸江▼うちはむしろ老健以外の民間の特養とか、訪問との連携をしっかり取ってかないと、色々なことがシェアできない状況です。感染の問題や、報酬上の分からないこと、人のやりくりの問題等を一緒に考えられる体制作りを進めています。

前野▼ボランティアにご協力いただいていますか。

柳崎▼ボランティア登録をしてもらつて、玄関前の整理整頓や院内コンサート等にきてもらっています。まだたくさんではないので、募集しています。

諸江▼有償で3名のシルバーの方々が、午前中、車寄せから受け付けまでのエリアに立ってくださっています。ご案内や、自動再来受付機や自動精算機の使い方を一緒にやってくれたりして大変助かっています。地域の力を活用するという点でも、意味があると感じています。

浅野▼今まで多職種連携を進めていますが、今後は看護師同士の同職種連携を強化したいと思っています。

諸江▼まず、看護師ですよ。中小規模の病院への認定看護師のアプローチとか、同じ目線で考えられる話し合いの場が絶対に必要だと思っています。うちも調査研究を始めるところです。

前野▼お話を伺って、患者さん、行政、開業医の先生たちと顔の見える小さいコミュニティならば、実質的なものは見える関係であると思えました。今後とも、ぜひ地域へ出ていって、地域の核になるJCHO病院にしていきたいと思っています。

※3 MSW:医療ソーシャルワーカー。
※4 ALS:筋萎縮性側索硬化症。



事務職員新人研修を 終えて

JCHO 本部 総務部 人事課人事専門職 岩瀬 康裕

本部一括採用の第一期生となる事務職員を対象にした新人研修が、平成 31 年 4 月 1 日から 2 週間、東京高輪の本部研修棟で開催されました。

研修内容は、本部職員が講師を務める業務関連の講義、外部講師をお招きしての特別講演やビジネスマナー等の接客研修、更には研修生らが班ごとに分かれて一つの定められたテーマについてミーティングを行い、班ごとにプレゼンテーションを行う班別討論と多岐にわたりました。見慣れない用語や初めて意識する社会人としてのマナー等を習得しようと、研修生達は必死に食らいついていました。

また、座学だけでなく、研修会場を飛び出して、国立療養所多磨全生園への施設見学の機会もありました。午前中は園の職員の方々にガイダンスを引き受けていただき、数班に分かれて園内を見学して回りました。折しも桜が満開の時期で、天候にも恵まれ、桜の花びらが舞う中でビニールシートを敷いての昼休憩は、快適だったのではないかと思います。午後は園内の資料館を見学してハンセン病に関する歴史を学びました。ハンセン病に対する差別・偏見を、昨今の SNS 等による根拠のない誹謗・中傷と結びつけ、確かな情報を得ることの重要性を再認識したとの意見が数多くありました。中には時間が足りなかったので、あらためて個人的に再度訪問したいといった積極的な感想もみられました。

研修以外では本部職員との懇親会において、積極的に本部職員に話しかけ、仕事のことや社会人としての心構え等の習得に努める姿勢が見られ、定刻を過ぎてもなお会場に残って話をする研修生も多数おり、盛況のうちに終わりました。

そのほか、東京の通勤ラッシュの大変さを知ったという声も多く聞きました。慣れてしまえばこんなものか、と受け入れてしまう朝の通勤ラッシュですが、研修生らにとっては、テレビ等でラッシュの様子は知っていても、実際に味わってみると、それは想像以上だった様です。

研修生を送り出す病院は、2 週間にわたり職員が不在となる間を、他の職員でカバーするための業務調整等で苦慮されたことと思います。研修を滞りなく実施するためにはこれらの方々の協力なくしては成立しません。この場をお借りして御礼申し上げます。なお、研修生からは、全国の同期と横のつながりを築くことができ、今後業務をしていく上で心強くなった、社会人として身につけておくべきビジネスマナーが身についたという感想が多数あり、今後病院で業務に取り組む上での糧となるものと考えております。以上、ご報告申し上げますとともに、今後、研修生を送り出す病院におかれては、ご協力下さいますようお願いいたします。

平成31年度事務職員新人研修日程

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
AM	オリエンテーション	独立行政法人制度 JCHO の概要等 情報セキュリティ情報システム 勤務時間・休暇 WLB・ハラスメント等	教育研修事業 中期目標・中期計画 独法評価制度 経営状況等 決算・契約等	国立療養所多磨 全生園見学	資金運用・調達 投資ルール 建物等整備状況	内部統制・内部監査 診療事業	人事制度・給与制度 業績評価制度等 介護保険・介護報酬	【特別講演⑤】 障害者への理解・支援と職場環境の改善について	班別ミーティング (最終打合せ)	研修の感想・今後の決意表明
PM	入構式 【特別講演①】 新採用の皆さんに贈る言葉 班別ミーティング	マナー研修	コミュニケーション力向上研修		医療保険・診療報酬 情報公開・個人情報保護 班別ミーティング	介護事業 班別ミーティング	【特別講演②】 メディアから医療関係者に望むこと 【特別講演③】 医療政策の動向について 【特別講演④】 医療分野における ICT 化の動向について	【特別講演⑥】 病院運営における事務職員の役割について	応急救護について 班別ミーティング	ラップアップミーティング (班別発表)

配属病院	氏名	研修で得たもの、気づいたこと、感想等
北海道病院	 さとう ゆき 佐藤 由季	ビジネスマナーや、自分が配属されていない課の業務内容を詳しく知ることができ、今まで以上に病院事務職として幅広い目を養うことができました。
札幌北辰病院	 はせがわ ゆう 長谷川 柚	配属前に最低限の社会人としてのマナーを身につけ、今後の人生においても活かしていきたいと思える講義を受けられたことは良かったと思う。また、今後も関係を続けていきたいと思える同期ができたことは非常に良かった。
登別病院	 さとう しゅんいち 佐藤 駿一	研修のすべてを持ち帰り、活かすことは難しいですが、一つでも多くのことが仕事に応用できるように配属先でも頑張ります。
仙台病院	 なかむら ありさ 中村 有咲	JCHO のことを学べたり、諸先輩方から貴重なお話を聞くことができ、知識や心がまえ、目標が得られました。分からないことばかりで、不安だらけでしたが、教えて頂き、活かせるようになるまでの過程を得られたことが貴重でした。大変有意義な時間でした。
仙台南病院	 おきい かすみ 沖井 花霞	2週間の研修は、とても充実していて、良い時間を過ごせたと思います。本部の方々や研修に関わっていたの方々には、とても感謝しています。これから病院で勤務することになりますが、研修で学んだことを忘れず、JCHO に貢献できるように頑張ります。
秋田病院	 いとう りか 伊東 風香	もう少し実践的な内容の講義があっただけ良かったが、コミュニケーションの重要性や社会人としてのマナーを身につけることができた。
二本松病院	 まくらい ゆうな 櫻井 結菜	今回得たことを忘れず、これからの業務をしっかりと行い、JCHO の発展につながるような人材となっていきたいと思いました。
うつのみや病院	 えはら たかふみ 江原 隆文	この研修で、医療現場の実情に関する知識を深めることができた。また、同期とのコミュニケーションを図ることができた。
群馬中央病院	 はるやま みずき 春山 みずき	研修では、JCHO 全体の業務の把握ができました。全国各地の配属場所から集まり、みんなが一体となって研修する機会はなかなかないので、とても楽しかったです。一人一人が今後の未来を見据え、社会に貢献できるよう努めます。

配属病院	氏名	研修で得たもの、気づいたこと、感想等
さいたま北部医療センター	 ひらい ひろまさ 平井 弘菜	この研修では、JCHOの組織としてのあり方についての知識や、医療従事者・公的組織に属する者としての倫理観を得ることができた。また、JCHOネットワークを活用するにあたっての同期とのつながりを作ることができた。
埼玉メディカルセンター	 たけだ ひろかず 武藤 宏和	講義をもう少し参加型にしてほしいと感じました。「この事について知ってる？」等の簡単な投げかけでも構いませんので、何か振っていただきたかったと感じることがありました。しかし、大変貴重な体験でした。この研修では、社会人意識を得ることができました。
千葉病院	 いとう はるな 伊藤 春奈	職員の皆様の方がお疲れだと思ふのに、沢山労ってもらってお心遣い本当に感謝でしかないです。この2週間で得た力を活かして、病院に行っても頑張りたいと思います。
船橋中央病院	 おさき ゆうな 尾崎 由奈	上司の方々が、「事務職において大切にしてほしいこと、求められること」を自分で想像していたことと異なる視点でお話されていたので、今後自分はどのような人になりたいのか、もっと広い視野で見る第一歩となりました。また、「コミュニケーション力」とは、何が求められているのか考え行動できる人、という小森谷さん ^(注) の意見も参考になりました。
東京高輪病院	 おおぶち ゆめ 大淵 ゆめ	100名以上いる同期とは、今まで交流する機会がなかったため、2週間通して情報を共有できる横のつながりを作ることができ、とても良かった。また、様々な部署の方のお話が聞けてとても参考になった。
東京新宿メディカルセンター	 てらだ ゆきの 寺田 雪乃	研修が始まる前は、周りの人とやっつけられるだろうかと不安だったが、研修が終わろうとしている今は、終わってしまうことが寂しいくらいである。周りの人とも自分なりにこの2週間でコミュニケーションをとれてよかった。充実した2週間だった。
東京山手メディカルセンター	 かとう さき 加藤 沙希	施設見学は実際に目で見て肌で感じて、より鮮明に記憶に残っているの、そうした行動する研修を増やせたらより良いと思います。この研修では、たくさんのことを学びました。社会人としての基礎やコミュニケーションの仕方等人間力が高まったと思いました。
東京城東病院	 おの れいな 小宅 怜奈	JCHOがどんな立ち位置で、これから先どんなことが待ち受けているのか理解できました。
横浜中央病院	 しみず あきひろ 清水 章弘	配属先の病院を問わず、同期とコミュニケーションを取ることができたのが一番大きな収穫であったと思います。また、民間の企業とは少し違う点で守るべきルールというものが多くあるので、その部分について理解することができたことはとても良かったです。
横浜保土ヶ谷中央病院	 やち ますみ 八子 麻澄	この2週間の研修を通して、JCHOで働く職員としてのやりがいや面白さに気づけた。病院でもこの研修を思い出しながら頑張っていきたい。
相模野病院	 あかつ きよこ 赤津 咲也子	事務職として病院をよく知ることができた実りある研修でした。医事課・経理課などの仕事内容についての話をもう少し詳しくお聞きしてみたかったです。グループで同じ病院で固まった方が良いのではないかなと思いました。
湯河原病院	 ふるてら ゆういちろう 古寺 陽一郎	沢山の刺激を受けられた良い研修だったと思います。一期生ということもあり、同期とのコミュニケーションは今後も綿密にとれる機会があれば嬉しいです。

(注)「コミュニケーション力向上研修」の外部講師 小森谷 徹キャスター

配属病院	氏名	研修で得たもの、気づいたこと、感想等
金沢病院	 さいとう たかゆき 齊藤 孝幸	研修をうけて、ハンセン病の歴史やJCHOにおける個人情報の取扱いについて学ぶことができました。なによりも同期の名前と顔を知れたことが良かったです。
福井勝山総合病院	 ますやま あきこ 増山 晃子	思っていた以上に濃い2週間でした。日々の講義だけでなく、グループワークにおいても多くの人と話し合ったり、新しい発見があったり、と充実したものとなりました。来週からが本当のスタートだと思っているので、まだまだ不安がありますが、この研修で考えた自分なりのJCHO職員としての理想、人としての理想に近づけるよう、さらに気を引きしめて頑張りたいと感じました。
若狭高浜病院	 はやかわ しゅうや 早川 修矢	講義やプレゼンを聞く中で、必要な知識を学ぶだけでなく、様々な方々のものの見方や考え方に触れることができ、大変貴重な経験になったと感じます。
桜ヶ丘病院	 なめがた ゆうか 行方 悠華	難しい講義が多かったので、新人職員にとって一番身近なことや、わかりやすいことに絞ってじっくり説明していただけると仕事のイメージがしやすかったです。また、実践形式での講義が増えるとうわかりやすいと思いました。研修で学んだことを復習して、病院に行って活躍できるように努力していきたいと思います。
三島総合病院	 かすや あゆみ 粕谷 歩実	研修で全国の同期との交流の機会を得られたことで、病院という職場環境の知識や社会人として、また、JCHO職員としての責任感の意識を得られました。
滋賀病院	 わかづき あや 若槻 紬	第1期採用ということで、私たちのために研修内容を一生懸命考えて下さったというのが伝わってきました。2週間とても濃く充実した時間を過ごせました。配属先でも学んだことを活かし頑張ります。
京都鞍馬口医療センター	 さわだ ゆうき 澤田 侑季	全国の同期と関わることができて良かったです。講義や特別講演などで自分がこれから行っていく業務の概要を知ることができ、JCHOの事務職員としての自覚を強くもつことができました。
大阪病院	 とよたか たいき 豊高 大樹	研修を受講して、社会人としての第一歩を踏み出すことができたと思う。学校では教わらないマナーやコミュニケーションなどの講座もあってよかった。また、同期と仲良くなることができた。
大阪みなと中央病院	 つない もも 筒井 萌々	特別講演は総じてためになった。医療の現状や将来について真剣に考えるようになった。講演については、すべて資料が丁寧で見やすかったが、資金運用や診療報酬等、理解しにくいものは例として計算問題を出してみたり、一部の講義にあった実際の事例等を提示していただけるとより集中して聴けるのではないかと考える。
星ヶ丘医療センター	 くらかけ ゆういち 倉掛 勇一	関西地区の人だけでなく、関東の人など様々な人と交流でき、情報交換が行えた。どの講義もこれからの業務に活かせるものばかりだったので、とても有意義な研修でした。
神戸中央病院	 よしだ なお 吉田 奈生	JCHOの業務や医療について詳細に知ることができ、有意義な研修でした。また、懇親会で普段中々お話しすることのできない本部の方と交流することができ、嬉しかったです。総じて学びの多い研修でした。この研修を通して、一社会人として、JCHO職員としての意識が高まりました。今後もお世話になるかと思いますが、よろしくお願いいたします。
大和郡山病院	 わかばやし ごう 若林 豪	現場のふとした瞬間に思い出すような、基本的な内容の研修だったので、この研修を忘れず現場で頑張ります。

配属病院	氏名	研修で得たもの、気づいたこと、感想等
玉造病院	 高橋 麻里 たかはし まり	研修前は、業務内容や会計の仕組みが全くわからず不安だったが、研修を受けて、自分が勉強すべき内容が何なのかがわかった。JCHOとしての事務職員1期生の研修ということで、人事課の方は研修の実施に苦勞されたことと思いますが、とても気さくに質問に答えてくださり、私たちを育てようという気持ちを感じました。
徳山中央病院	 谷崎 愛美 たにざき あいみ	研修を受講したことで、早寝早起き、社会人らしい生活習慣になりました。
りつりん病院	 岡田 拓也 おかだ たくや	あっという間に過ぎた二週間であった。医療事務の仕事内容への理解が大きく深まった。また、グループワークや特別講座によって同期との結束が生まれた。ここで得た友人関係、知識を持ち帰り、活かしていきたい。
宇和島病院	 岩崎 直斗 いわさき なおと	講師の方々からこれからの病院のことや業務内容を学んだり、班で将来のことについて話し合ったことで、どんな事務職員を目指したいかという目標ができた。
高知西病院	 中村 栄時 なかむら えいじ	様々なことを学べたが、一番は同期の人や上司の方と話げできたことが良かったです。不安が少しなくなりました。
九州病院	 紫藤 正之 しとう まさゆき	2週間の短い間でしたが、講義やグループワーク、施設見学など盛り沢山の内容で充実した研修内容でした。研修では、同期や本部の方々の出会いをはじめ、色々な人との出会いを通じて考え方が広がりました。同じ目標に向かって頑張る仲間として刺激を受けました。
久留米総合病院	 市橋 一樹 いちばし かずき	この研修を通して、JCHO職員としての心掛けや、医療の現場を改善していく中で、事務職員に求められる役割や能力について学ぶことができました。また、二週間の中で、様々な方とコミュニケーションを取り、連携していくことの重要さも学ぶことができました。
福岡ゆたか中央病院	 若山 莉菜 わかやま りな	何も分からない状態で不安でしたが、研修を通して自分の働く姿を想像できるようになり、非常に有意義な2週間でした。112人の同期をこれからも大切にしていこうと思います。
諫早総合病院	 山城 方理 やましろう まり	この研修では、病院経営において大事な規則や、ハンセン病についても知ることができました。地域を問わず、同期とのつながりを作れたこともこの研修で得たものです。
熊本総合病院	 犬童 優香 いんどう ゆうか	とても内容の濃い研修で、JCHO職員としての自覚をもって職務に取り組む重要性を強く考えさせられました。外部講師の方々の講習もあり、今後働いていく中でしっかりと活かしていけるよう頑張りたいと思います。
天草中央総合病院	 洲崎 紬斗 すざき あやと	この研修では、実際に病院事務として働く上で大切にすべき心構えについて学ぶことができました。疑問点について、分からない部分を埋めることができました。何より、人脈を広げることができました。とても充実しており、人事の方の準備の大変さがあったからこそだと感じた。
宮崎江南病院	 北澤 彩穂 きたざわ あやほ	施設見学がとても印象に残りました。知識として知ると、実際にどういったことが起きていたか、当事者の方の話を聞くのでは、(今回はDVDでしたが)インパクトも違いました。とても勉強になりました。

タイ自治体による湯河原病院視察を迎えて

JCHO 湯河原病院 副理学療法士長 寺見 彰洋



タイの視察団の皆さん、野毛坂グローカル 奥井氏（左端）、湯河原町介護課 大野氏（左から5番目）、病院職員

タイで前国王の服喪が明け、新国王の戴冠式が行われるというニュースを聞いたのは最近でした。そのタイからの視察団が来ると聞いてから知ったことですが、タイという国は少子高齢化の進行がアジア近隣諸国の中でも飛び抜けて速く、日本の超高齢化社会に迫る勢いだそうです。

5月10日、タイのブンイトー市の市長をはじめとする自治体幹部、大学関係者等6名が同市に高齢者の通所系サービス施設を開設するにあたり、高齢化先進地域である湯河原町の視察に訪れました。視察団一行は、この日丸一日をかけて湯河原町の複数の介護老人保健施設等を視察され、当院では地域における当院の役割や業務の紹介を行いました。

まず高取病院長から当院の概要として、病院の立地する地域性、医療事業、介護保険事業等の紹介がありました。次に、私から昨年12月に長時間型から移行し開始している短時間型通所リハビリテーション（以下、通所リハ）を紹介しました。その内容は通所リハの地域包括ケアシステムの中での位置づけ、通所リハ開始までの流れ、当院の通所リハの特徴、実際に利用者を実施しているプログラム等の内容紹介、現在の当院通所リハにおける課題でした。今回の視察全般をコーディネートされている野毛坂グローカル（NGO）代表の奥井氏に通訳をしていただきましたが、日本人に対して説明しても理解が難しいと思われる介護保険制度の話もあって、通訳するのに大変苦労されていました。

視察が通所リハ利用者のいない時間帯となったため、スライドを用いた紹介と体験コーナーを設定しました。使用したスライドは文字をタイの言葉に変換こそしましたが、検索サイトの翻訳機能を用いて変換した、いわゆるコピペしたもので、正確に伝わるか不安はありました。

体験コーナーでは松本作業療法士指導のもと通所リハで行っているコグニサイズと呼ばれる認知症予防運動プログラムを体験していただきました。コグニサイズは認知と運動の協調が要求される課題を通して脳の活動を促すものです。健常者でもスムーズに行うことが難しい運動を行っていただきました。全体を通して多くの質問をいただきながら、コグニサイズの難しい課題にも笑顔で挑戦していただき、有意義な体験を提供できたと自負しています。

伝えたいことの何割が理解されたか気掛かりではありましたが、視察された方たちからは興味深く話が聞け、印象に残る体験ができたとのメールをいただき安心しました。また、タイに帰国後はブンイトー市の職員を対象とした研修会が開催され、当院の視察内容の報告が行われたと聞いています。今後もこのような関係が継続し、お互いの問題の相談やアドバイスをし合える関係が継続すると地域としても心強いのではないかと思います。

患者・利用者満足度調査を活かしたサービス向上

JCHO 本部 企画経営部 患者サービス推進課

JCHO では、毎年 10 月に 57 病院・26 老健施設のすべての施設を対象とした患者・利用者満足度調査を実施しています。ここでは、平成 30 年度の調査の概要と、調査結果を活かしたサービス向上のための取組の一端をご紹介します。

●満足度調査の概要について

満足度調査は、期間中に退院された方や外来を受診された方に調査票をお渡しし、ご回答をいただく方法で行いました。

50～60 ほどの調査項目について、「満足」から「不満」までの 5 段階で評価をいただいた回答を、5 点満点に点数化し、集計しています。

集計の結果、多くの方から満足との回答が寄せられました。一方、病院食や待ち時間の満足度は低い傾向にありました。その他、結果の概要は右に示したとおりですが、詳しい結果は、JCHO のホームページに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

●調査結果を活かしたサービス向上のための取組

評価結果の高い項目・低い項目は、施設ごとにばらつきがあり、施設ごとに強みと弱みを分析し、改善に取り組み、サービス向上に活かしていくことが欠かせません。調査により、「また利用したい」「家族や知人に紹介したい」などの主要な評価指標と関わりの深い項目が浮かび上がっており、各施設は、患者・利用者に満足いただけるよう、優先的に改善すべき項目から取り組んでいるところです。

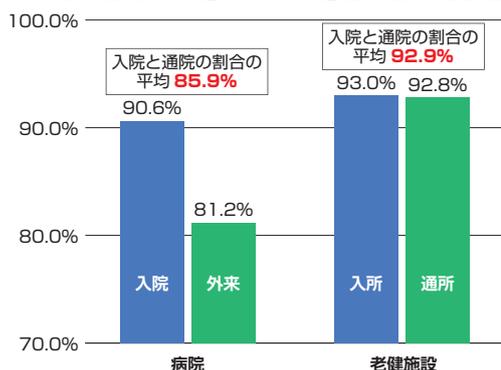
JCHO では中期目標として「患者の視点に立った良質かつ安心な医療の提供」を掲げており、2019 年度から 2023 年度の第 2 期中期目標では、患者・利用者満足度調査をサービスの質の向上の指標のひとつとして、「病院全体の満足度」において、「満足」又は「やや満足」と回答した方の割合の平均を毎年度 87% 以上、「老健施設全体の満足度」において毎年度 92% 以上とする目標値が設定されました。例年満足度が低い傾向の項目は、病院においては「病院食」「施設設備等」「入院環境」「待ち時間」「自宅での療養生活の支援」、老健施設においては「食事」「リハビリ」「行事・レクリエーション」ですので、重点改善項目として改善に向けて取り組んでいきます。

JCHO 全施設が一丸となって患者さんの視点に立ったサービスを提供できるよう、皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

【調査概要】	
① 病院 57 か所	
入院患者の満足度調査	：平成 30 年 10 月 15 日～29 日の 15 日間の退院患者に調査票を配布し、6,434 名が回答（回収率 83.9%）
外来患者の満足度調査	：平成 30 年 10 月 15 日～29 日の任意の 1 日の外来患者に調査票を配布し、12,878 名が回答（回収率 82.6%）
② 老健施設 26 か所	
入所者の満足度調査	：平成 30 年 10 月 15 日～11 月 5 日の 22 日間の入所者に調査票を配布し、1,447 名が回答（回収率 68.6%）
通所利用者の満足度調査	：平成 30 年 10 月 15 日～29 日の 15 日間の通所利用者に調査票を配布し、1,455 名が回答（回収率 78.7%）

【調査結果の概要】		
① 病院	入院	前年度と比較し、64 設問中（他新規設問 3 問）28 設問の評価が上昇し、57 病院中 23 病院は全体評価が上昇した。 評価が高い項目は「当院を利用したい」「医師」「看護師」であった。 評価が低い項目は「病院食」「施設設備等」「入院環境」であった。
	外来	前年度と比較し、61 設問中（他新規設問 1 問）全ての評価が下降したが、57 病院中 14 病院は全体評価が上昇した。 評価が高い項目は「当院を利用したい」「看護師」「医師」であった。 評価が低い項目は「待ち時間」「施設設備等」「療養生活の支援」であった。
② 老健施設	入所	49 設問全て 4 点以上（5 点満点）であり、全体評価が 4.5 点以上の施設は 26 施設中 9 施設であった。 評価が高い項目は「当施設を利用したい」「当施設を紹介したい」「職員」であった。 評価が低い項目は「行事」「食事」「リハビリ」であった。
	通所	47 設問全て 4 点以上であり、全体評価が 4.5 点以上の施設は 26 施設中 15 施設であった。 評価が高い項目は「当施設を利用したい」「送迎」「職員」であった。 評価が低い項目は「行事」「食事」「リハビリ」であった。

病院(老健施設)全体としての満足度(平成30年度)
5段階評価で「満足」「やや満足」と回答した割合



第5回JCHO地域医療総合医学会の開催に向けて

一般社団法人地域医療機能推進学会 事務局長 中村 仁

一般社団法人地域医療機能推進学会では、令和元年11月1日（金）、2日（土）の両日、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜 会議センターを会場に『第5回JCHO 地域医療総合医学会』を開催することとし、現在、準備作業を鋭意進めております。

会長には内野 直樹理事（JCHO 理事・地域医療機能推進学会理事）にご就任いただき、メインテーマを『士魂商才』といたしました。メインテーマ設定の趣旨については学会ホームページに掲載しております「会長挨拶」をご覧ください。

今回のプログラムは、従来の構成から大幅な見直しを行い、学会に設置されている各職種により構成される9部会（院長部会、事務部会、看護部会、薬剤部会、放射線部会、臨床検査部会、リハビリ部会、栄養部会、臨床工学部会）からの提案を数多く取り入れ、内野会長曰く『all JCHO の力を結集した形』の企画構成といたしました。

具体的には、会長講演から始まり、第1回医学会からの継続テーマである「事務職に求められる病院マネジメント」、「特定行為研修の効果及び省令改正（研修プログラム改正）について」等のシンポジウム4題、会長企画シンポジウム1題とともに、新たに各部会が企画したテーマによる教育講演2題、シンポジウム6題、また、一般演題においても部会が提案した新規テーマ・カテゴリーを設定し募集を行ったところ応募総数は504題にも達しました。

特別講演では、元女子ソフトボール日本代表監督の宇津木 妙子先生（NPO 法人ソフトボール・ドリーム理事長）をお招きし「努力は裏切らないー組織の力を強くするにはー」をテーマにご講演をさせていただくこととしておりますのでご期待ください。

本医学会は、JCHOに勤務する職員の皆様が一堂に会し、互いの成果を発表し、意見を交換する貴重な機会です。各セッションで活発な議論が行われることを期待し、皆様の参加を心からお待ちしております。

開催概要の詳細につきましては、学会ホームページに随時掲示してまいりますので、ご確認くださいませようお願いいたします。<http://www.jchs.or.jp/>



ポスター

第5回 JCHO 地域医療総合医学会 開催スケジュール（予定）

会場：パシフィコ横浜 会議センター

【1日目】 11月1日（金）		【2日目】 11月2日（土）	
8:30 ~	受付開始	8:15 ~	受付開始
9:15 ~ 9:25	開会式	9:00 ~ 12:10	シンポジウム 部会企画（シンポジウム） 一般演題（口演発表・ポスター発表）
9:30 ~ 10:30	会長講演	12:20 ~ 13:20	教育セミナー
10:45 ~ 11:45	特別講演	13:30 ~ 14:30	会長企画シンポジウム 部会企画（教育講演） 一般演題（口演発表・ポスター発表）
12:00 ~ 13:00	教育セミナー	14:35 ~	閉会式
13:10 ~ 16:30	継続テーマシンポジウム 部会企画（教育講演・シンポジウム） 一般演題（口演発表・ポスター発表） 職場チームによる業務改善の取り組み発表	14:45 ~	部会総会
17:15 ~ 17:45	職場チームによる業務改善の取り組み表彰式		
17:50 ~	懇親会		

※ スケジュールは変更する場合がありますのでご了承ください。

- ・ 職場チームによる業務改善の取り組み表彰式及び懇親会の会場は「横浜ベイホテル東急」です。
- ・ PCセンター受付時間は、11/1（金）8:30～16:30、11/2（土）8:15～14:00を予定しています。
- ・ ポスター掲示時間は、11/1（金）8:30～9:10、11/2（土）8:15～9:00を予定しています。

安心の地域医療を支える

JCHO GROUP

地域医療機能推進機構 全国病院MAP

本部

〒108-8583 東京都港区高輪3-22-12 URL <http://www.jcho.go.jp/>
TEL:03 (5791) 8220 FAX:03 (5791) 8258

北海道病院
旧：北海道社会保険病院

札幌北辰病院
旧：札幌社会保険総合病院

登別病院
旧：登別厚生年金病院

北海道

秋田病院
旧：秋田社会保険病院

うつのみや病院
旧：宇都宮社会保険病院

群馬中央病院
旧：社会保険群馬中央総合病院

山梨病院
旧：社会保険山梨病院

仙台病院
旧：仙台社会保険病院

仙台南病院
旧：宮城社会保険病院

二本松病院
旧：社会保険二本松病院

東日本

徳山中央病院
旧：総合病院社会保険徳山中央病院

下関医療センター
旧：社会保険下関厚生病院

九州病院
旧：九州厚生年金病院

久留米総合病院
旧：社会保険久留米第一病院

福岡ゆたか中央病院
旧：健康保険直方中央病院

佐賀中部病院
旧：佐賀社会保険病院

伊万里松浦病院
旧：社会保険浦之崎病院

高岡ふしき病院
旧：社会保険高岡病院

金沢病院
旧：金沢社会保険病院

福井勝山総合病院
旧：福井社会保険病院

若狭高浜病院
旧：社会保険高浜病院

玉造病院
旧：玉造厚生年金病院

近畿

さいたま北部医療センター
旧：社会保険大宮総合病院

埼玉メディカルセンター
旧：埼玉社会保険病院

千葉病院
旧：千葉社会保険病院

船橋中央病院
旧：社会保険船橋中央病院

東京高輪病院
旧：せんぽ東京高輪病院

東京新宿メディカルセンター
旧：東京厚生年金病院

東京山手メディカルセンター
旧：社会保険中央総合病院

東京城東病院
旧：城東社会保険病院

東京蒲田医療センター
旧：社会保険蒲田総合病院

桜ヶ丘病院
旧：社会保険桜ヶ丘総合病院

三島総合病院
旧：三島社会保険病院

東海北陸

大阪病院
旧：大阪厚生年金病院

大阪みなと中央病院
旧：大阪船員保険病院

星ヶ丘医療センター
旧：星ヶ丘厚生年金病院

神戸中央病院
旧：社会保険神戸中央病院

滋賀病院
旧：社会保険滋賀病院

京都鞍馬口医療センター
旧：社会保険京都病院

大和郡山病院
旧：奈良社会保険病院

南海医療センター
旧：健康保険南海病院

湯布院病院
旧：湯布院厚生年金病院

宮崎江南病院
旧：社会保険宮崎江南病院

諫早総合病院
旧：健康保険諫早総合病院

熊本総合病院
旧：健康保険熊本総合病院

人吉医療センター
旧：健康保険人吉総合病院

天草中央総合病院
旧：健康保険天草中央総合病院

九州

横濱中央病院
旧：社会保険横濱中央病院

横濱保土ヶ谷中央病院
旧：横浜船員保険病院

相模野病院
旧：社会保険相模野病院

湯河原病院
旧：湯河原厚生年金病院

可児とうのう病院
旧：岐阜社会保険病院

中京病院
旧：社会保険中京病院

四日市羽津医療センター
旧：四日市社会保険病院

四国

JCHO「理念」

我ら全国ネットのJCHOは
地域の住民、行政、関係機関と連携し
地域医療の改革を進め
安心して暮らせる地域づくりに貢献します

地区事務所

本部北海道四国地区管理部 〒108-8583 東京都港区高輪3-22-12 2F
 東日本地区事務所 〒108-0074 東京都港区高輪3-22-12 1F
 東海北陸地区事務所 〒457-0866 愛知県名古屋市中区三栄1-1-10 中京病院健康管理センター内
 近畿地区事務所 〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島4-2-78 JCHO大阪病院別館3階
 九州地区事務所 〒866-0862 熊本県八代市松江城町2-26 熊本総合病院健康管理センター棟4F

URL <https://www.jcho.go.jp/>

